

このたびは当社製品をご採用いただきまして誠にありがとうございます。
この「取扱説明書」はお読みになった後は、大切に保管してください。



下田エコテック株式会社

SK・SE式各種施工要領および取扱説明書



グリース汚染から美しい環境を守る
品質第一のSEブランド

目次

1. 施工のポイント

- (1) スラブ天吊型施工要領 …………… 1
- (2) 耐火型施工要領 …………… 2
- (3) スラブ天吊・防水型阻集器推奨設置要領図 …… 3
- (4)(5) 地中埋設型施工要領 …………… 4
- (6) GFRP製施工要領 (埋設深さ 1.0m 未満) …… 5
- (7) GFRP製施工要領 (埋設深さ 1.0m 以上) …… 6
- (8) GFRP製補強型RDS製施工要領 …………… 7
- (9)(10) ステンレス製浅型一体・分離タイプ施工要領 …… 8
- (11)(12) GFRP製浅型一体・分離タイプ施工要領 …… 9
- (13) 床置型施工要領 …………… 10

2. グリーストラップの維持・管理のポイント …………… 11

3. ガソリントラップの維持・管理のポイント …………… 12

4. 排水枳・ダスタートラップの維持・管理のポイント …… 13

5. プラスタートラップ・ヘアートラップの維持・管理のポイント …… 14

6. 散水栓ボックスの施工および維持・管理のポイント …… 15

7. オイルトラップの維持・管理のポイント …………… 16,17

8. マンホールの安全荷重について …………… 18

9. 保証・サービス …………… 18

施工業者様 …… 施工のポイント 1~10ページ

取り付け作業に着手する前に、必ず本取扱説明書をお読み頂き、正しく施工していただきますようお願い申し上げます。

維持管理者様 …… 維持・管理のポイント 11~17ページ

ご使用前に本取扱説明書をお読みの上、使用上の注意事項、機能、使用方法などについて十分ご理解いただいた上で、正しくご使用いただきますようお願い申し上げます。

- 取扱説明書は、お使いになる方がいつでも見られるところに必ず保管してください。
施工業者様は施工終了後、本取扱説明書を維持管理者様にお渡しください。

1. 施工のポイント

施工方法を誤るとグリーストラップ等の機能を発揮しないばかりか、施工者や使用者が傷害を負う可能性がありますので、必ず施工方法に従って施工してください。

(1) スラブ天吊型 施工要領 (図1 SE式グリーストラップ施工例参照)

- 1) スラブ開口部に本体が収まることを確認します。(標準スラブ開口寸法参照)
この際、流入管・排出管の飛び出し寸法を考慮し、必要に応じて開口を広げてください。
- 2) 標準開口寸法のほか、本体つばの寸法を考慮して開口部外周に105mm×12mm幅程度の欠きこみをしてください。(P.3参照) 防水層上の溜り水が本体に流入しやすくなります。
(本体設置後、本体つばと欠きこみの段差はモルタル等で補修してください)
- 3) 流入・排出方向を確認して本体を開口部に落とし込み、芯出し・レベル調整後、本体つばの四隅にアンカーを打設して固定してください。防水層を傷つけないように溶接アンカーを使用し、アンカー頭部を溶接後サンダーなどで平滑にすることをお勧めします。
- 4) 本体を必要に応じて、吊金具などで支えてください。
- 5) 本体設置後、受枠・蓋設置まで本体上部にコンパネなどで養生してください。
(槽内にゴミが入ったり、作業者が落下することを防止します)
- 6) スラブ上に防水を施してください。
この際、本体つばに異物が付着していないことを確認し、つばに防水層を密着させてください。
また、防水層は防水止フックの10mm程度手前で止め、水抜き穴を塞がないようご注意ください。(P.3参照)
- 7) 床仕上げレベルを確認し、芯出し・レベル調整後、受枠を固定します。増し打ちコンクリートを打設の際は、型枠を桝木等で補強しコンクリート圧で内側に撓まないようにしてください。
(内側に撓むと、部品が着脱出来なくなることがあります)
- 8) 受枠に蓋を乗せ、容易に出入りが出来ることと、ガタツキが無いことを確認してください。
- 9) 増し打ちコンクリートを打設し、床を仕上げてください。

表1 標準スラブ開口寸法 (mm)

型式	長さ	幅
SE-31SA	600	350
SE-45SA	800	350
SE-60SA	700	500
SE-80SA	900	500
SE-102SA	1100	500
SE-130SA	1100	600
SE-160SA	1300	600
SE-200SA	1500	600
SE-251SA	1600	700
SE-286SA	1800	700
SE-376SA	1800	800

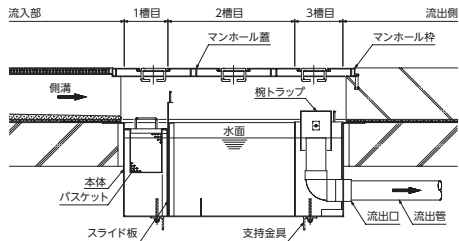


図1 SE式グリーストラップ 施工例

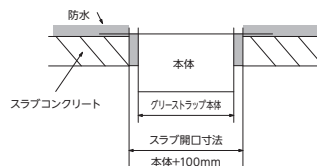


図2 本体寸法とスラブ開口寸法との関係図

(注) 上記、「標準スラブ開口寸法」・「本体寸法とスラブ開口寸法との関係」は参考値です。排出管の方向、口径を考慮し、開口してください。耐火型グリーストラップの開口寸法は表1に適用されませんのでご注意ください。

(2) 耐火型 施工要領

- 1) スラブ開口部に本体が収まることを確認します。(耐火型標準スラブ開口寸法参照)
この際、流入管・排出管の飛び出し寸法を考慮し、必要に応じて開口を広げてください。
- 2) 標準開口寸法の他、本体つばの寸法を考慮して開口部外周に120mm×12mm幅程度の欠きこみをしてください。(P.3参照) 防水層上の溜り水が本体に流入しやすくなります。
(本体設置後、本体つばと欠きこみの段差はモルタル等で補修してください)
- 3) 流入・排出方向を確認して本体を開口部に落とし込み、芯出し・レベル調整後、本体つばの四隅にアンカーを打設して固定してください。防水層を傷つけないように溶接アンカーを使用し、アンカー頭部を溶接後サンダーなどで平滑にすることをお勧めします。
- 4) 本体は必要に応じて、吊金具などで支えてください。
- 5) 本体設置後、受枠・蓋設置まで本体上部にコンパネなどで養生してください。
(槽内にゴミが入ったり、作業者が落下することを防止します)
- 6) 配管接続後、配管周囲に耐火被覆材(付属品)を巻きつけてください。(図3参照)
- 7) スラブ上に防水を施してください。
この際、本体つばに異物が付着していないことを確認し、つば防水層を密着させてください。
また、防水層は防水止めフックの10mm程度手前で止め、水抜き穴を塞がないようご注意ください。
(P.3参照)
- 8) 床仕上レベルを確認し、芯出し・レベル調整後、受枠を固定します。増し打ちコンクリートを打設の際は、型枠を桝木等で補強しコンクリート圧で内側に携まないようにしてください。
(内側に携むと、部品が着脱出来なくなることがあります)
- 9) 受枠に蓋を乗せ、容易に出入りが出来ることと、ガタツキが無いことを確認してください。
- 10) 増し打ちコンクリートを打設し、床を仕上げてください。

表2 耐火型標準スラブ開口寸法(mm)

型式	長さ	幅
SE-31SA 耐火E型	630	380
SE-45SA 耐火E型	830	380
SE-60SA 耐火E型	730	530
SE-80SA 耐火E型	930	530
SE-102SA 耐火E型	1130	530
SE-130SA 耐火E型	1130	630
SE-160SA 耐火E型	1330	630
SE-200SA 耐火E型	1530	630
SE-251SA 耐火E型	1630	730
SE-286SA 耐火E型	1830	730
SE-376SA 耐火E型	1830	830

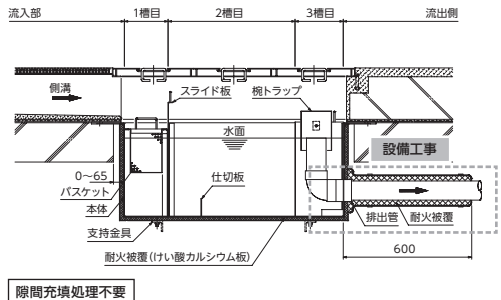


図3 耐火型グリーストラップ 施工例

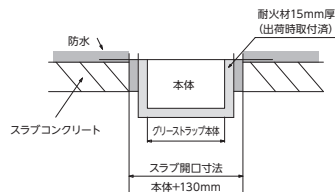
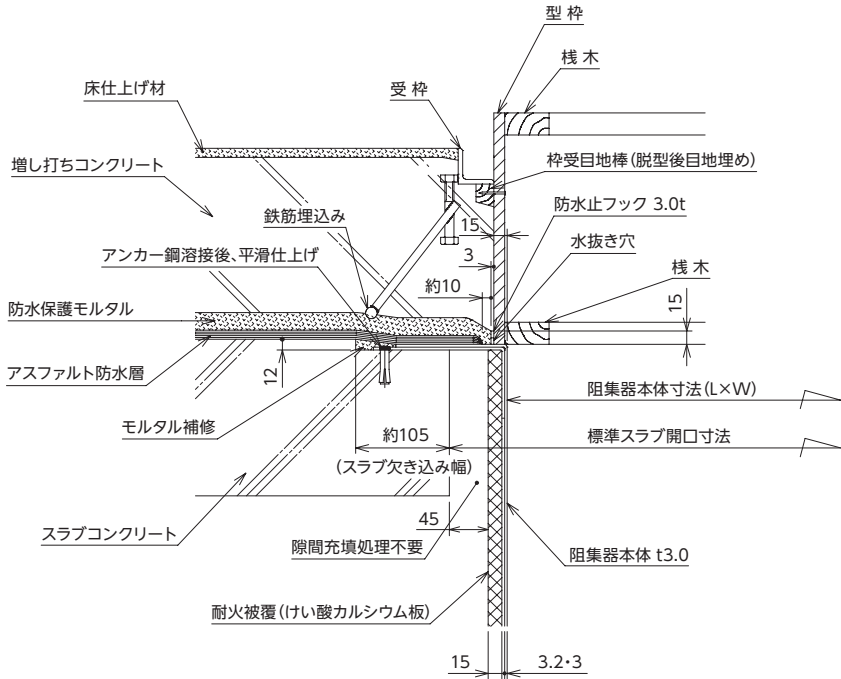


図4 耐火型本体寸法とスラブ開口寸法との関係図

(注) 上記、「耐火型標準スラブ開口寸法」・「耐火型本体寸法とスラブ開口寸法との関係」は参考値です。
排出管の方向、口径を考慮し、開口してください。

(3) スラブ天吊・防水型阻集器推奨設置要領図



設置要領

- 1) 防水仕様の阻集器は、躯体打設時に標準スラブ開口寸法の他、約105mm×12mm幅のスラブ欠き込みを4周に設けてください。(この欠き込み部に本体防水つば125mm～150mm幅×6mm厚がセットされます)
※欠き込みが無い場合、本体周辺の防水層が盛り上がる為、排水が滞留することがあります。
- 2) 芯出し後、本体を水平に据え付け、4隅にアンカーを打設し、頭部を溶接固定してください。(アスファルト防水層を傷つけないようアンカー頭部をサンダー掛けし、平滑にしてください)
- 3) 防水つばとスラブ欠き込みの段差部は、モルタル等で補修して防水下地を作ってください。
- 4) アスファルト防水層の貼り仕舞い端部は、防水止フックの10mm程度手前で止めて水抜き穴を塞がないようにしてください。(防水止フックには水抜き穴が設置されており、アスファルト防水層上部の滞留水や防水層下部からにじみ出た水等がこのスリットから排出されます)
- 5) 保護モルタル打設時、受枠や側溝取付け用のアンカー鉄筋(D-13)等を両サイドに埋め込んでください。後施工する場合は、芯出し後にコンクリート用接着剤等を用い要所に溶接用アングルピース等を接着してください。
- 6) 受枠取付け用の内型枠を防水止フックの4周に押し当て、要所を桟木等で補強してください。(増し打ちコンクリート打設時の側圧で受枠が変形した場合、蓋が納まらない状況が生じます)
- 7) 仮受用の目地棒を4周に取付け、その上に受枠をセットし、フックボルトとアンカーを溶接して同枠を固定してください。
- 8) 増し打ちコンクリートを打設してください。
- 9) 型枠解体後、目地棒を抜き取りモルタル補修してください。
- 10) 上蓋を乗せて完了です。
- 11) スラブ躯体開口と製品の外装材(耐火被覆)の間の隙間処理は不要です。(断熱材を充填する必要はありません)
- 12) 配管接続は、ステンレス鋼管・炭素鋼鋼管・耐火二層管のご使用をお願い致します。

(4) 地中埋設型 施工要領 【蓋天端(高上枠含む)から本体底部までの深さが1.3m未満】

- 1) 事前に側溝内水下や流入管・排出管のレベルを確認し、本体取付高さを決定します。
- 2) 砕石を敷き転圧後、底盤コンクリートを100mm~150mm程度打ちます。
- 3) 芯出し後、流入・排出方向を確認して本体を水平に据え付け、配管を接続します。
- 4) 本体周囲を150mm程度のコンクリートで固めます。この際、コンクリート圧で阻集器が壊まないように、槽内に水を溜め、張木を施したうえで行ってください。
- 5) 土間仕上げレベルを確認し、芯出し・レベル調整後、受枠を固定します。
- 6) **高上げはステンレス製スリーブ枠やコンクリートで施工しますが、高上げ部周囲にコンクリートを打設の際は、スリーブ枠や型枠を棧木等で補強してコンクリート圧で内側に壊まないようにしてください。(内側に壊むと、部品が着脱出来なくなることがあります)**
- 7) 受枠に蓋を乗せ、容易に出し入れが出来ることと、ガタツキが無いことを確認してください。
- 8) 土間仕上げレベルまでコンクリートを打設し、表面を仕上げてください。
- 9) 地下水の水位が高い場所での施工の際は、水圧を考慮した対策が必要です。

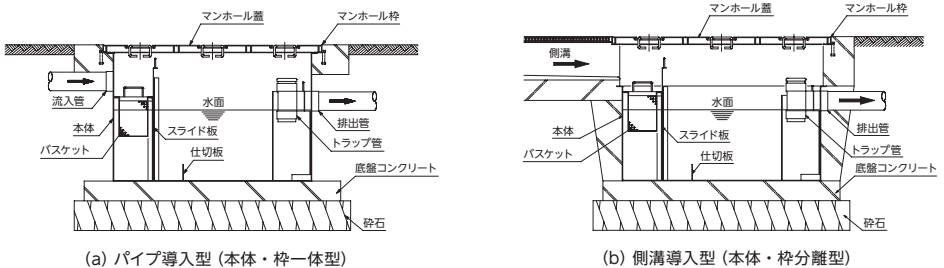


図5 地中埋設型 施工例

(5) 地中埋設型 施工要領 【蓋天端(高上枠含む)から本体底部までの深さが1.3m以上】

- 1) 上記施工要領1) 2)を参照願います。
- 2) 本体外形寸法とクリアランスを考慮し、側溝内水下または流入管底の下端まで外周にコンクリートで擁壁を打設します。(荷重条件などを考慮し、コンクリート内の鉄筋挿入を検討してください)
- 3) 芯出し後、流入・排出方向を確認して本体を水平に据え付け、配管を接続します。
- 4) 本体と擁壁のクリアランスをモルタルなどで埋め戻してください。この際、コンクリート圧で阻集器が壊まないように槽内に水を溜め、張木を施したうえで行ってください。
- 5) 土間仕上げレベルを確認し、芯出し・レベル調整後、受枠を固定します。
- 6) 上記施工要領6)を参照願います。
- 7) 受枠に蓋を乗せ、容易に出し入れが出来ることと、ガタツキが無いことを確認してください。
- 8) 土間仕上げレベルまでコンクリートを打設し、表面を仕上げてください。(荷重条件などを考慮し、コンクリート内の鉄筋挿入を検討してください)
- 9) 地下水の水位が高い場所での施工の際は、水圧を考慮した対策が必要です。

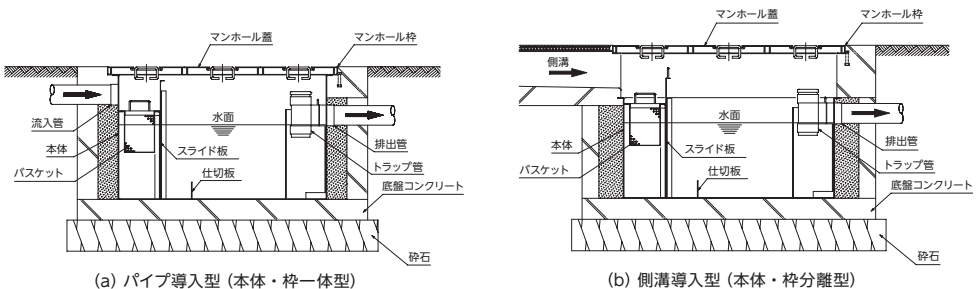


図6 地中埋設型 施工例

(6) GFRP製 施工要領

【蓋天端（高上枠含む）から本体底部までの深さが1.0m未満】

- 1) 事前に側溝内水下や流入管・排出管のレベルを確認し、本体取付高さを決定します。
- 2) 砕石を敷き転圧後、底盤コンクリートを100～150mm程度打ちます。
- 3) 芯出し後、流入・排出方向を確認して本体を水平に据え付け、配管を接続します。
- 4) 本体周囲を150mm程度のコンクリートで固めます。この際、コンクリート圧で阻集器が撓まないように、槽内に水を溜め、張木を施したうえで行ってください。
- 5) 土間仕上げレベルを確認し、芯出し・レベル調整後、受枠を固定します。
- 6) 高上げはGFRP製スリーブ枠やコンクリートで施工しますが、高上げ部周囲にコンクリートを打設の際は、スリーブ枠や型枠を栈木等で補強してコンクリート圧で内側に撓まないようにしてください。（内側に撓むと、部品が着脱出来なくなることがあります）
- 7) 受枠に蓋を乗せ、容易に出入りが出来ることと、ガタツキが無いことを確認してください。
- 8) 土間仕上げレベルまでコンクリートを打設し、表面を仕上げてください。
- 9) 地下水の水位が高い場所での施工の際は、水圧を考慮した対策が必要です。

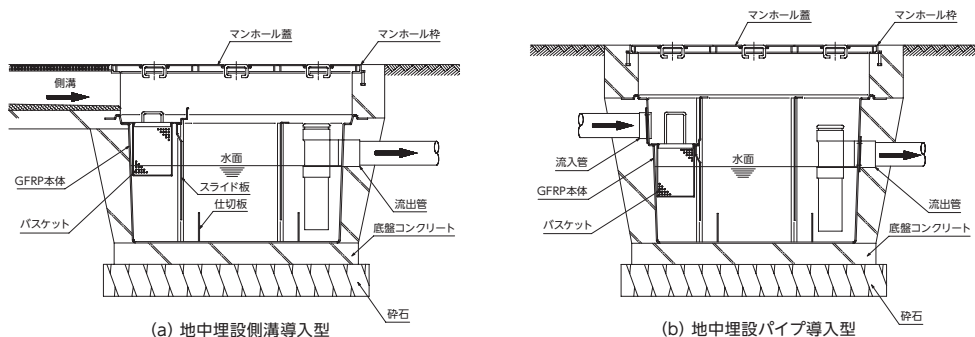






図7 GFRP製グリーストラップ 施工例

- 1) GFRP本体に付いている配管継手はPVC製です。流入管、排出管の取り付けはPVC専用の接着剤を用い確実に差し込んでください。（図7）
- 2) GFRP製はステンレス製のものに比べ、埋め戻し時の土圧に弱いので、槽内に張木を施すなど本体が撓まないように特にご注意ください。（槽内が内側に撓むと、スライド板が取り外せなくなる場合があります）

 注意	<p><u>本体設置後はマンホール、コンクリートパネル等で本体に蓋をしてください。</u></p> <p>● 作業者が本体に転落してけがをする原因となります。</p>
 禁止	<p><u>本体内のトラップ管に強い衝撃を与えたり、上に乗ったりしないでください。</u></p> <p>● トラップ管が破損する原因となります。</p>
 禁止	<p><u>本体内のご受け部や仕切板の上に乗ったりしないでください。</u></p> <p>● 作業者がけがをしたり、部材が破損する原因となります。</p>
 禁止	<p><u>GFRP 本体には強い衝撃を与えないでください。</u></p> <p>● GFRP 本体が破損する原因となります。</p>

(7) GFRP製 施工要領

【蓋天端（高上枠含む）から本体底部までの深さが1.0m以上】

- 1) 事前に側溝内水下や流入管・排出管のレベルを確認し、本体取付高さを決定します。
- 2) 碎石を敷き転圧後、底盤コンクリートを100～150mm程度打ちます。
- 3) 本体外形とクリアランスを考慮し、側溝内水下または流入管底の下端まで外周にコンクリートで擁壁を打設します。(荷重条件などを考慮し、コンクリート内の鉄筋挿入を検討してください)
- 4) 芯出し後、流入・排出方向を確認して本体を水平に据え付け、配管接続をします。
- 5) 本体と擁壁のクリアランスをモルタルなどで埋め戻してください。この際、コンクリート圧で阻集器が撓まないように、槽内に水を溜め、張木を施したうえで行ってください。
- 6) 土間仕上レベルを確認し、芯出し・レベル調整後、受枠を固定します。
- 7) 嵩上げはGFRP製スリーブ枠やコンクリートで施工しますが、嵩上げ部周囲にコンクリートを打設の際は、スリーブ枠や型枠を桟木等で補強してコンクリート圧で内側に撓まないようにしてください。(内側に撓むと、部品が着脱出来なくなることがあります)
- 8) 受枠に蓋を乗せ、容易に出し入れが出来ることと、ガタツキが無いことを確認してください。
- 9) 土間仕上レベルまでにコンクリートを打設し、表面を仕上げてください。(荷重条件などを考慮し、コンクリート内の鉄筋挿入を検討してください)
- 10) 地下水の水位が高い場所での施工の際は、水圧を考慮した対策が必要です。

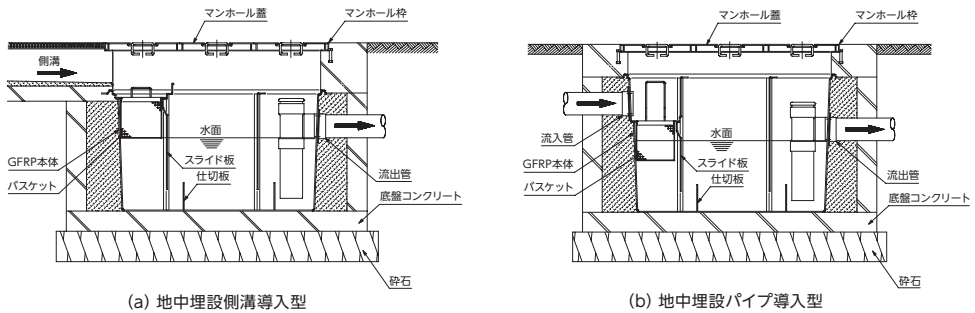


図8 GFRP製グリーストラップ 施工例

- 1) GFRP本体に付いている配管継手はPVC製です。流入管、排出管の取り付けはPVC専用の接着剤を用い確実に差し込んでください。(図8)
- 2) GFRP製はステンレス製のものに比べ、埋め戻し時の土圧に弱いので、槽内に張木を施すなど本体が撓まないように特にご注意ください。(槽内が内側に撓むと、スライド板が取り外せなくなる場合があります)

	注意	本体設置後はマンホール、コンクリートパネル等で本体に蓋をしてください。 ● 作業者が本体に転落してけがをする原因となります。
	禁止	本体内のトラップ管に強い衝撃を与えたり、上に乗ったりしないでください。 ● トラップ管が破損する原因となります。
	禁止	本体内のかご受け部や仕切板の上に乗ったりしないでください。 ● 作業者がけがをしたり、部材が破損する原因となります。
	禁止	GFRP本体には強い衝撃を与えないでください。 ● GFRP本体が破損する原因となります。

(8) GFRP製補強型RDS 施工要領

設置条件：①マンホール蓋天端から本体底部面までの深さは2.0m以下

②地下水水位は本体底部面以下とします。(注1参照)

- 1) 事前に側溝内水下や流入管・排出管のレベルを確認し、本体取付高さを決定します。
- 2) 碎石を敷き転圧後、底盤コンクリートを100～150mm程度打ちます。
- 3) 芯出し後、流入・排出方向を確認して本体を水平に据え付け、配管を接続します。
- 4) 土間仕上レベルを確認し、芯出し・レベル調整後、受枠を固定します。
- 5) 嵩上げはGFRP製スリーブ枠やコンクリートで施工しますが、嵩上げ部周囲にコンクリートを打設の際は、スリーブ枠や型枠を棧木等で補強してコンクリート圧で内側に撓まないようにしてください。(内側に撓むと、部品が着脱出来なくなることがあります)
- 6) 受枠に蓋を乗せ、容易に出し入れが出来ることと、ガタツキが無いことを確認してください。
- 7) 乗載荷重を考慮する必要がある場合は、土間仕上レベルまでに鉄筋を挿入したコンクリートを打設してください。
- 8) 地下水の水位が高い場所での施工の際は、水圧を考慮して対策が必要です。

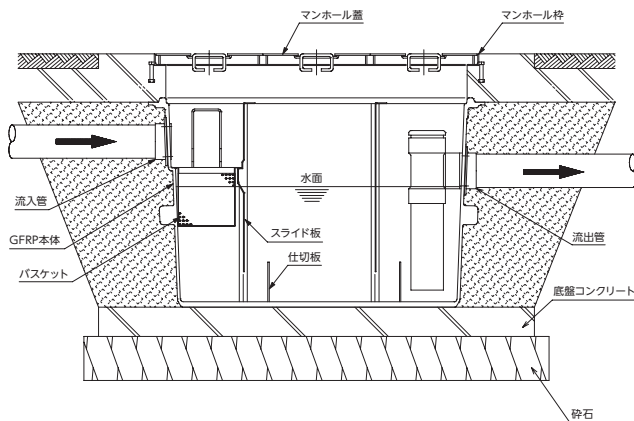


図9 GFRP製グリーストラップ 施工例

GFRP製製品 共通注意事項 ※施工の際は下記の点に十分ご注意ください。

注1. 地下水について

地下水水位が高い場合は本体に浮力が作用すると共に、本体には外部から土圧、水圧が同時に作用することになり思わぬトラブルに繋がります。その際は弊社営業部に御相談ください。

注2. 本体はGFRP製品ですので、マンホール受枠に作用する作業荷重や積載荷重は構造スラブに負担させてください。

直接本体に同荷重を作用させないような構造にしてください。

本体天端4周に緩衝材(スタイロフォーム厚20mm程度等)を設置し構造スラブの荷重を直接させぬよう縁を切ってください。

(9) ステンレス製浅型一体タイプ 施工要領

- 1) 床仕上げレベルと本体高さを考慮し、本体設置位置全体にベースモルタルを水平に敷設します。
(本体底部に空洞を生じさせないように施工してください)
- 2) 芯出し後、流入・排出方向を確認して本体を据え付け、配管を接続します。
- 3) 増し打ちコンクリートを打設し、床を上げてください。
打設時は、本体に重しを載せる等して、「浮き上がりやズレの防止」を考慮してください。

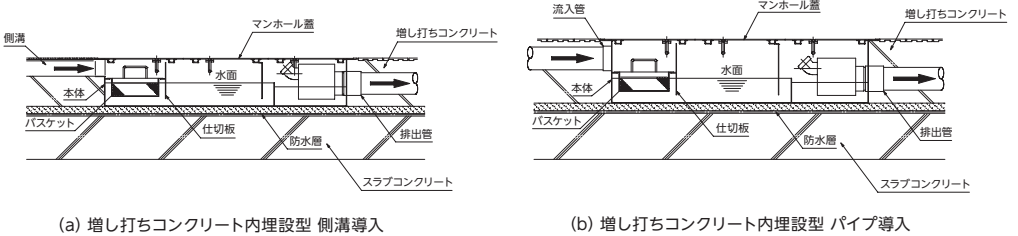


図 10 ステンレス製浅型グリーストラップ 施工例

(10) ステンレス製浅型分離タイプ 施工要領

- 1) 本体設置位置全体にベースモルタルを水平に敷設します。
(本体底部に空洞を生じさせないように施工してください)
- 2) 芯出し後、流入・排出管方向を確認して本体を据え付け、配管を接続します。
- 3) 床仕上げレベルに合わせて受枠を固定します。高上げをする場合は増し打ちコンクリートを打設の際に、型枠やスリーブ枠を栈木等で補強してコンクリート圧で内側に撓まないようにしてください。
(内側に撓むと、部品が着脱出来なくなることがあります)
- 4) 受枠に蓋を乗せ、容易に出入れが出来ることと、ガタツキが無いことを確認してください。
- 5) 増し打ちコンクリートを打設し、床を上げてください。打設時は、本体に重しを載せる等して、「浮き上がりやズレの防止」を考慮してください。

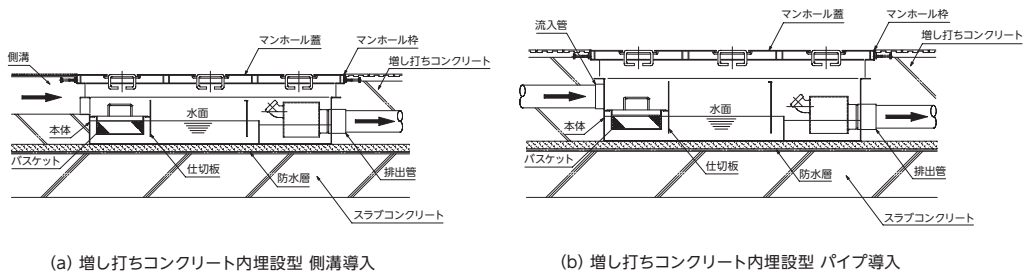


図 11 ステンレス製浅型グリーストラップ 施工例

(11) GFRP製浅型一体タイプ 施工要領

- 1) 床仕上レベルと本体高さを考慮し、本体設置位置全体にベースモルタルを水平に敷設します。
(本体底部に空洞を生じさせないように施工してください)
- 2) 芯出し後、流入・排出方向を確認して本体を据え付け、配管接続します。
排出管を3方向に設置していますので、使用しない排出管は付属のキャップで本体内側より確実に塞いでください。
- 3) 増し打ちコンクリートを打設し、床を仕上げてください。打設時は、本体に重しを載せる等して、「浮き上がりやズレの防止」を考慮してください。

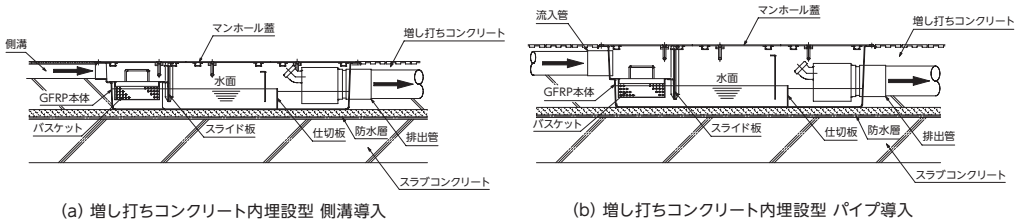


図12 GFRP製浅型グリーストラップ 施工例

(12) GFRP製浅型分離タイプ 施工要領

- 1) 本体設置位置全体にベースモルタルを水平に敷設します。
(本体底部に空洞を生じさせないように施工してください)
- 2) 芯出し後、流入・排出方向を確認して本体を据え付け、配管を接続します。
排出管を3方向に設置していますので、使用しない排出管は付属のキャップで本体内側より確実に塞いでください。
- 3) 床仕上レベルに合わせて受枠を固定します。高上げをする場合は増し打ちコンクリートを打設の際に、型枠やスリープ枠を栈木で補強してコンクリート圧で内側に撓まないようにしてください。(内側に撓むと、部品が着脱出来なくなることがあります)
- 4) 受枠に蓋を乗せ、容易に出入れが出来ることと、ガタツキが無いことを確認してください。
- 5) 増し打ちコンクリートを打設し、床を仕上げてください。打設時は、本体に重しを載せる等して、「浮き上がりやズレの防止」を考慮してください。

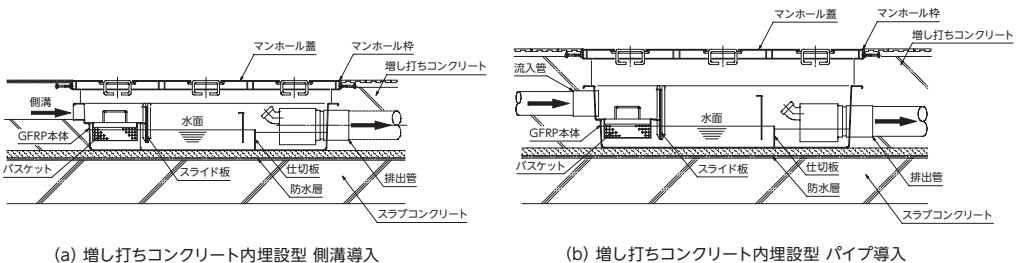


図13 GFRP製浅型グリーストラップ 施工例

(13) 床置型 施工要領

- 1) 設置位置、流入・排出管方向を確認してください。
- 2) 本体蓋の上部に、バスケットを取り出し清掃するスペースが確保できるか確認してください。(図15)
- 3) 本体に固定用ピースがある場合は、アンカーで確実に固定してください。
- 4) 流入管・排出管を接続後、通水試験を行い、漏水の無いことを確認してください。
- 5) 蓋は、蝶ボルトやキャッチクリップで確実に締め付けてください。

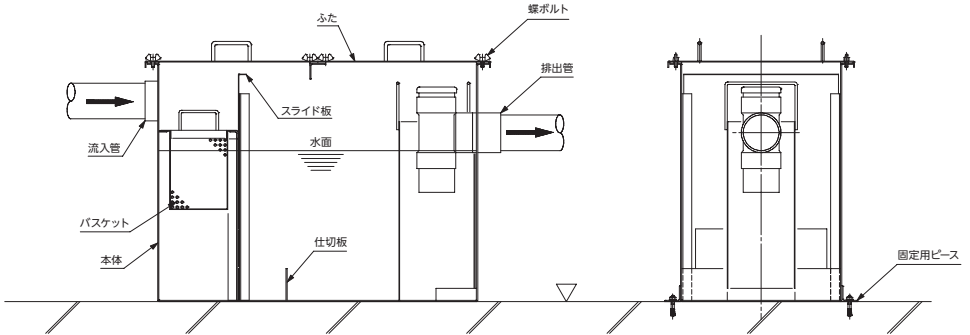


図14 床置型グリーストラップ 施工例

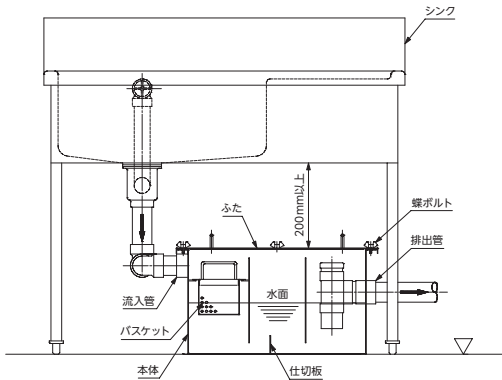


図15 シンク下グリーストラップ 施工例

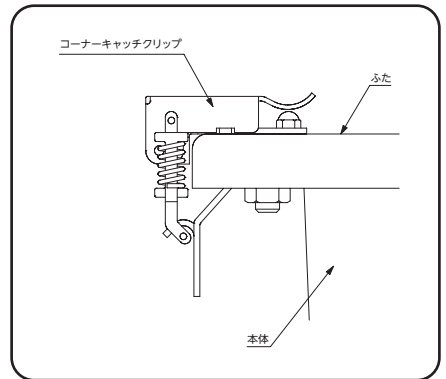


図16 キャッチクリップ部詳細

2. グリーストラップの維持・管理のポイント

① バスケットの清掃は毎日

本体内のバスケットは、ゴミ・カスなどを受けるためのものです。他の目的には使用しないでください。少なくとも1日に1回は取り外し清掃をしてください。



注意

バスケットの清掃時は手袋等安全具を使用し作業してください。

- 手を切るなどのけがの原因となります。

② 油脂分の清掃は1週間に1回

油脂（ラード）類は本体内に浮いて溜まりますので、少なくとも1週間に1回はストレーナなどですくい上げて回収してください

③ 底部沈殿物の除去は1ヶ月に1回

本体底部には沈殿物が溜まりますので、隔壁形スライド板上部取手を持ち本体から引抜き、底部沈殿物を少なくとも1ヶ月に1回はすくい上げ除去してください。除去後、元の位置に取付けてください。

④ トラップ内部の清掃は2～3ヶ月に1回

隔壁形スライド板上部取手を持ち本体から引抜き、トラップ内部の清掃を行ってください。清掃は2～3ヶ月に1回行ってください。清掃後、元の位置に取り付けてください。清掃時以外は絶対に取り外さないでください。



注意

トラップの清掃時は手袋等安全具を使用し作業してください。

- 手を切るなどのけがの原因となります。



禁止

本体内のトラップ管に強い衝撃を与えたり、上に乗ったりしないでください。

- トラップ管が破損する原因となります。



禁止

本体内のかご受け部や仕切板の上に乗ったりしないでください。

- 作業者がけがをしたり、部材が破損する原因となります。

① バスケットの清掃は毎日1回



② 油脂分（ラード）の清掃は1週間に1回

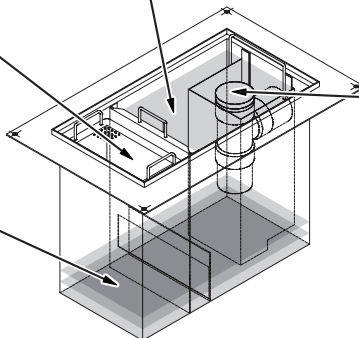


④ トラップ内部の清掃は2～3ヶ月に1回

(注) 掃除口のキャップは忘れず元の位置へ



③ ゴミ・油脂などの底部沈殿物の清掃は1か月に1回



3. ガソリントラップの維持・管理のポイント

オイル阻集性能を適正に維持するためには、本体内を清掃することが不可欠で、下記の要領で行ってください。清掃をおろそかにしますと、土砂・ゴミなどが流出管を詰まらせて排水機能障害を与え、不要な管理費用が生じるとともに、流出したオイルにより爆発事故を引き起こす可能性が高まります。

① ストレーナの清掃は1週間に1回

本体内のストレーナは落葉などのゴミを受けるためのものですから、少なくとも1週間に1回は取り外し清掃をしてください。

② 砂留カップの清掃は1週間に1回

砂留カップはストレーナを抜けて出る砂・泥・ゴミ等を受けるためのものですから、少なくとも1週間に1回は取り外して清掃してください。



注意

ストレーナ、砂留カップの清掃時は手袋等安全具を使用して作業してください。

- 手を切るなどのけがの原因となります。

③ オイルの回収

オイル類は本体内に浮いて溜まりますので定期的に「ひしゃく」などですくい上げて回収してください。

④ 底部沈殿物の除去

本体底部には沈殿物が溜まりますので、一定期間ですくい上げ除去してください。

⑤ トラップ管のキャップは清掃時以外ははずさない

トラップ管に付いているキャップは臭気止めですから、清掃時以外は絶対に取り外さないでください。

⑥ スライド板は正しく差し込んでください

スライド板が正しく差し込まれているかどうか確認してください。

清掃時以外に外したり、正しく差し込みませんとオイル阻集性能が著しく低下する事がありますので御注意ください。



禁止

本体内のトラップ管に強い衝撃を与えたり、上に乗ったりしないでください。

- トラップ管が破損する原因となります。



禁止

本体内のかご受け部や仕切板の上に乗ったりしないでください。

- 作業者がけがをしたり、部材が破損する原因となります。

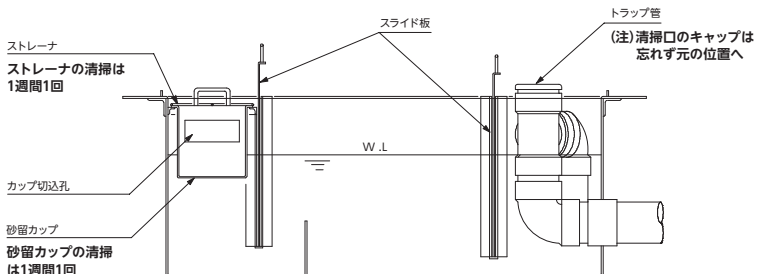


図17 ガソリントラップの維持・管理のポイント

4. 排水柵・ダスタートラップの維持・管理のポイント




阻集性能を適正に維持するためには、本体内容を清掃することが不可欠で、下記の要領で行ってください。清掃をおろそかにしますと、悪臭やゴキブリなどの害虫が発生し不衛生になるとともに、ゴミなどが流出管を詰まらせて、排水機能障害を与え、不要な管理費用が生じることになります。

① バスケットの清掃は1週間に1回

本体内のバスケットはゴミを受けるためのものです。少なくとも1週間に1回は取り外し清掃をしてください。

② 底部沈殿物の除去は1ヶ月に1回

本体底部には沈殿物が溜まりますので、少なくとも1ヶ月に1回はすくい上げ除去してください。

 注意	バスケットの清掃時は手袋等安全具を使用して作業してください。 ● 手を切るなどのけがの原因となります。
 禁止	本体内のトラップ管に強い衝撃を与えたり、上に乗ったりしないでください。 ● トラップ管が破損する原因となります。
 禁止	本体内のごご受け部の上に乗ったりしないでください。 ● 作業者がけがをしたり、部材が破損する原因となります。

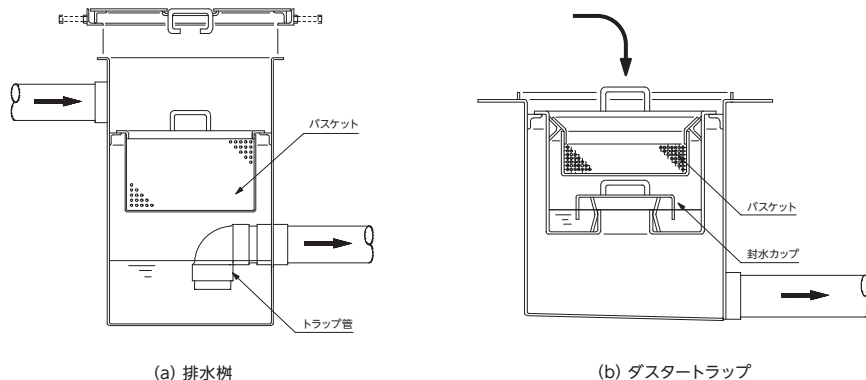


図18 排水柵/ダスタートラップの維持・管理のポイント

5. プラスタートラップ・ヘアートラップの維持・管理のポイント

阻集性能を適正に維持するためには、本体内容を清掃することが不可欠で、下記の要領で行ってください。清掃をおろそかにしますと、プラスターやヘアーなどが流出管を詰まらせ排水機能障害を与え、不要な管理費用が生じることになります。

① プラスタートラップのストレーナの清掃は1週間に1回

プラスタートラップ本体内のストレーナは、プラスター、貴金属、美容用粘土等を受ける為のものですから、少なくとも1週間に1回は取り外して清掃してください。

② プラスター留カップ、バスケットの清掃は1週間に1回

プラスタートラップの留カップはストレーナを抜けて出るプラスター類、ヘアートラップのバスケットはヘアーを受ける為のものですから、少なくとも1週間に1回は取り外して清掃してください。



注意

ストレーナ、プラスター留カップ、バスケットの清掃時は手袋等の安全具を使用して作業してください。

- 手を切るなどのけがの原因となります。

③ 底部沈殿物の除去は1ヶ月に1回

本体底部には、沈殿物が溜まりますので、少なくとも1ヶ月に1回はすくい上げ除去してください。

④ プラスタートラップのトラップ管のキャップは清掃時以外はずさない

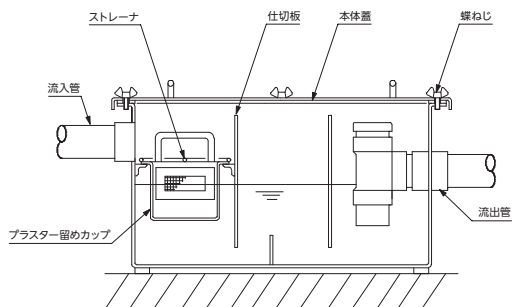
トラップ管に付いているキャップは臭気止めですから、清掃時以外は絶対に取り外さないでください。



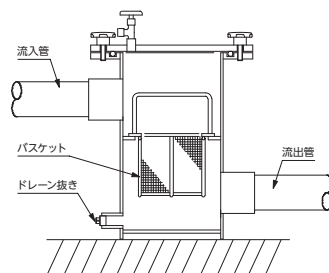
禁止

本体内のトラップ管に強い衝撃を与えないでください。

- トラップ管が破損する原因となります。



(a) プラスタートラップ



(b) ヘアートラップ

図19 プラスタートラップ/ヘアートラップの維持・管理のポイント

6. 散水栓ボックスの施工および維持・管理のポイント



壁設置型



土間埋設型



ドーム型水栓柱

(1) 施工のポイント

- 1) 散水栓ボックス・水栓柱に取付予定の給水栓が正しく取まり、ふた（扉）の開閉・操作点検が問題なく行える事を確認してください。
- 2) 本体を取付ける際、水平・垂直を確認し確実に取付けてください。
(水平・垂直が出ていせんと、ふた（扉）の開閉が出来なくなる事があります。)
- 3) 施工の際、本体に鉄筋等を溶接しないでください。
(本体板厚が薄いため、溶接の熱により本体に孔が開く場合があります。)
- 4) 本体施工後、ふた（扉）・鍵の開閉および施錠が行えるか確認してください。
- 5) ふた（扉）は確実に閉め、風等の影響により開かないようにしてください。
(風等で勢いよく開きますと、軸（回転部）が破損する恐れがあります。)
- 6) 塩水・薬品を水栓に使用しないでください。(錆が発生し腐食する原因となります。)
- 7) ふた（扉）・本体に強い衝撃を与えないでください。(破損する原因となります。)
- 8) 土間埋設型のふたに衝撃・積載荷重の掛からない場所に設置してください。



注意

施工の際は、作業用手袋等安全具をご使用して作業してください。

- 手を切るなどのケガの原因となります。

(2) 維持・管理のポイント

- 1) 定期的に、本体内部・外部の清掃を行ってください。
(埃などにより、ふたの軸（回転部）が固着し、ふた（扉）が開かなくなる恐れがあります。)
- 2) ふた・鍵の開閉が正常に行えるか確認してください。
- 3) 海岸沿いなどの環境下では、ステンレス製も発錆することがありますので、防錆処理等を行い定期的に点検を実施してください。軸（回転部）・鍵が動きにくい場合は、潤滑剤を塗布してください。



注意

清掃時は手袋等安全具を使用して作業をしてください。

- 手を切るなどのケガの原因となります。



注意

清掃後は、ふた（扉）を元の位置に戻してください。

- 作業者がおもわぬケガをする恐れがあります。



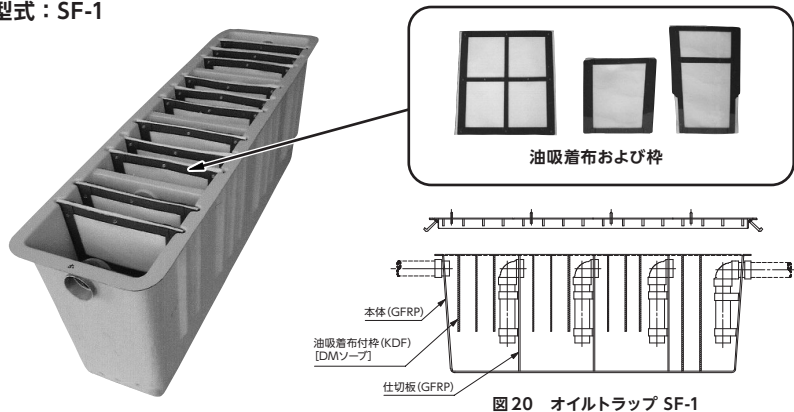
禁止

ふた（扉）・本体に重量物を載せたり、強い衝撃を与えないでください。

- 部材の破損や、作業者がケガをする原因となります。

7. オイルトラップの維持・管理のポイント

(1) 型式：SF-1



- 1) 4槽目の吸着布が黒く汚れていましたら、全ての吸着布を交換してください。
(交換を怠りますと、本来の性能が維持できなくなります。)

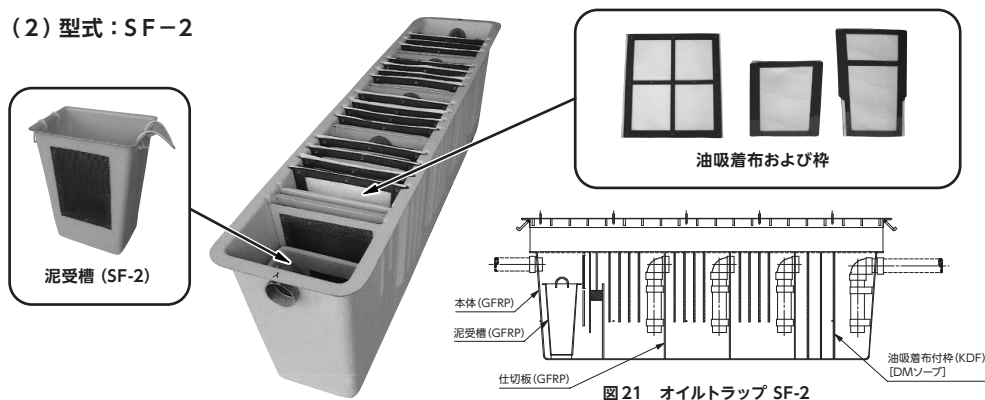
【吸着布交換式の場合】

- 2) 枠上部3ヶ所のボルトナットを緩め吸着布を外し、枠を水等で洗浄後、新しい吸着布を取付けてください。

【使い捨て式の場合】

- 3) 吸着布を枠から外さず枠ごと産業廃棄物処理してください。

(2) 型式：SF-2



- 1) 1週間に1回程度、泥受槽を清掃してください。
- 2) 1槽目のストレーナーを抜き出し水洗いしてください。
- 3) 4槽目の吸着布が黒く汚れていましたら、全ての吸着布を交換してください。
(交換を怠りますと、本来の性能が維持できなくなります。)

【吸着布交換式のみの場合】

- 4) 枠上部3ヶ所のボルトナットを緩め吸着布を外し、枠を水等で洗浄後、新しい吸着布を取付けてください。

【使い捨て式の場合】

- 5) 吸着布を枠から外さず枠ごと産業廃棄物処理してください。

(3) 型式：SF-4

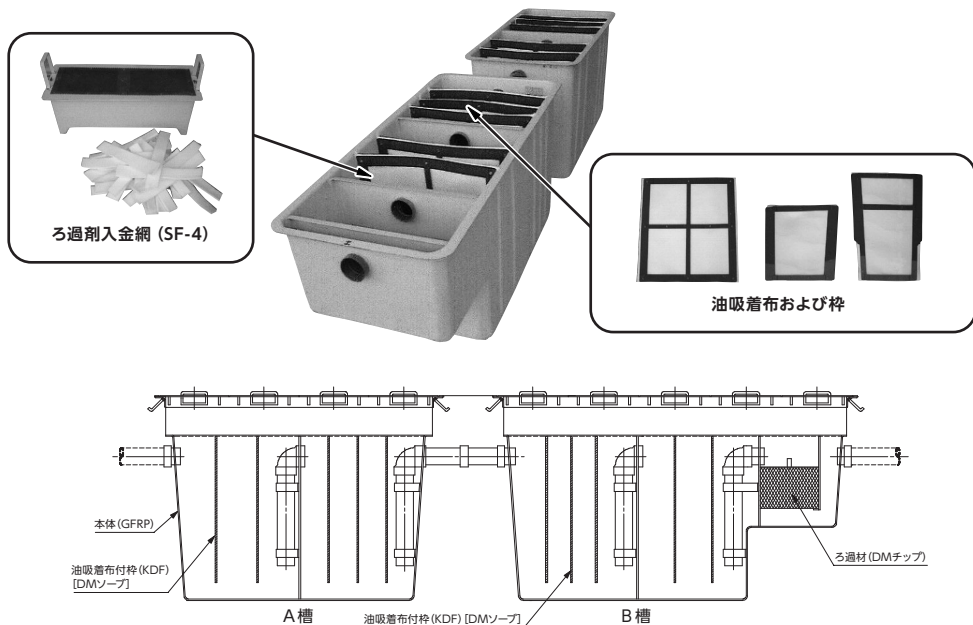


図 22 オイルトラップ SF-4

1) B槽の2槽目の吸着布が黒く汚れていましたら、全槽の吸着布 (吸着チップ含む) を交換してください。
(交換を怠りますと、本来の性能を維持できなくなります。標準交換目安：2ヵ月)

2) ろ過材入金網より、ろ過材 (DMチップ) を取出し、新しいチップを適量入れてください。

【吸着布交換式の場合】

3) 枠上部3ヶ所のボルトナットを緩め吸着布を外し、枠を水等で洗浄後、新しい吸着布を取付けてください。

【使い捨て式の場合】

4) 吸着布を枠から外さず枠ごと産業廃棄物処理してください。

共通注意事項



注意

汚れた吸着布は、産業廃棄物業者に引取って頂くか、行政の指示に従って処分してください。



注意

2ヵ月に1度はバキュームで全槽の水を吸い上げてください。(産業廃棄物処理)
その際、油吸着枠は一旦抜取っておいてください。
清掃終了後、新しい吸着布を取付けた枠を正しい位置へセットしてください。

8. マンホールの安全荷重について (使用範囲は「公道用」を除く「敷地内用」とします)

- (1) グリーストラップの標準仕様マンホール荷重区分は5kN/m² (500kg/m²) 等分布荷重 (人荷重) です。
- (2) 上記、標準仕様マンホールの荷重区分を超える重量物が載る恐れがある場合は、表3に示す耐荷重仕様のマンホール (T荷重区分: T-6、T-14、T-20) をご指定の上、ご使用ください。

表3 建築・設備用マンホール鉄蓋 (敷地内) の荷重区分 (注1)

通行車両 (注2)			マンホール仕様		
車種例	T荷重	総重量	破壊荷重 (注3)	安全荷重	一般呼び荷重
12トン車以下 大型ダンプ 大型バス	T-20	20,000kg	200kN (20,408kgf) 以上	50kN (5,102kgf)	重荷重用
6トン車以下 中型トラック 中型ダンプ	T-14	14,000kg	140kN (14,285kgf) 以上	35kN (3,571kgf)	準重荷重用
3トン車以下 マイクロバス 救急車	T-6	6,000kg	60kN (6,122kgf) 以上	15kN (1,530kgf)	中荷重用
1トン車以下 普通乗用車 軽トラック	T-2	2,000kg	20kN (2,040kgf) 以上	5kN (510kgf)	軽荷重用
人の歩行 二輪車 手押車	-	-	安全荷重 5kN/m ² (500kg/m ²) (等分布荷重)		歩道用

(注1) (社) 日本道路協会刊行の「道路橋示方書」に規定。

(注2) T荷重とは通過可能な車両の総重量であり、総重量 = 積載荷重 + 車両重量とする。

(注3) 参考数式: 破壊荷重 > 総重量であること。但し、総重量 = 安全荷重 × 安全率4とする。

9. 保証・サービス

本製品は常に厳しい管理体制のもと品質第一で製造されておりますが、ご購入1年以内の製品に材料または製造上の欠陥がある場合には、速やかに修理または代替品の発送を無償でさせていただきます。但し、以下の場合にはその責に及びかねますのでご了承ください。

- 施工不備等による製品の破損および付随的損害 (使用不能による経済的損失)。
- 目的以外の使用や納入後取り扱いによる製品の破損および付随的損害。
- 輸送機関の事故、天災地変 (地震、火災等) による、製品の破損および付随的損害。



下田エコテック株式会社

<http://www.shimoda-ecotech.co.jp>

E-Mail : home@shimoda-ecotech.co.jp

本 社 〒111-0052 東京都台東区柳橋 1-1-11 イーストサイドビル2F
TEL : 03-3864-5710 (代) FAX : 03-3864-5733・5703

札幌営業所 〒060-0004 札幌市中央区北4条西3丁目1番地 北海道建設会館2F
TEL : 011-223-0722 (代) FAX : 011-221-1821

仙台営業所 〒980-0013 仙台市青葉区花京院2丁目1番61号 第5タカノボルビル6F
(注) 2021.7.1よりビル名が、オークツリー仙台に名称変更となります。
TEL : 022-738-8461 (代) FAX : 022-738-8462

名古屋支店 〒460-0007 名古屋市中区新栄3丁目5番地1号 セントラル千種ビル4F
TEL : 052-262-0524 (代) FAX : 052-262-0538

大阪支店 〒541-0043 大阪市中央区高麗橋4丁目6-20 マスイビル6F
TEL : 06-6203-9745 (代) FAX : 06-6203-0017

市川流通センター 〒272-0013 市川市高谷1855-9 市川流通団地協同組合F棟2F
TEL : 047-329-6113 (代) FAX : 047-329-6121

- 本取扱説明書に記載されている内容は、予告なく変更することがあります。ご注文に際し、お近くの上記支店・営業所にお問い合わせください。
- 本取扱説明書に記載の住所、連絡先は2021年2月現在のものです。変更になる場合がございますのでお電話やファクシミリが繋がらない場合はお手数ですが、本社総務部までご連絡をお願い申し上げます。

取扱店